

「第3回アドバイザー会議」における補足説明(再質疑)

調書番号:6 事業名:緑の普及啓発事業費

補足説明

説明者職・氏名	説明内容
課長・平塚 幸美	<p>第2回アドバイザー会議で指示のあった人件費等の資料を追加で提出した。また、県の予算の積み上げと、業者が契約にあたって提出する予算案や実績報告の経費区分と一致しないところがあったので、県の予算の積み上げを業者の経費区分に落とし込んだ資料も参考として提出した。</p> <p>結果的には、前回の御指摘のとおり見直すべきところもある。</p> <p>アドバイザーの評価によって、緑化センターは平成26年3月に廃止したが、それにあたっては、地元を中心に3万7千人の存続の要望書の提出もあって、そうした県民の声も切り捨てる形で廃止という結論を出したことから、それだけに、これまで以上に普及啓発事業に力を注ぎやってきた。成果である参加者数も増え自負していたが、これからは、継続的に不断の見直しの意識をもって事業に取り組んでいかなければならないと痛感している。</p> <p>ただ、普及啓発事業はすぐに成果は出ない、また、やらなかった場合のマイナスの結果もなかなか見えにくい性質のもの。特に緑化は長い目で見ていかなければ、将来的に山梨の豊かな自然を守ることができなくなるという考えもあり、長いスパンで取り組みを継続していきたい。</p>

再質疑

アドバイザー	質問内容	回答者職・氏名	回答内容
小口アドバイザー 五味アドバイザー 諸平アドバイザー	なし		

「第3回アドバイザー会議」における評価区分及び評価内容

調書番号: 6 事業名: 緑の普及啓発事業費

アドバイザー	評価区分	評価内容
諸平アドバイザー	「要改善」	<p>緑の教室の講座には、民間が行うような講座が含まれていて、これ自体は準備に時間やお金をかけずに行えるように思えた。経費、事業内容、規模の見直しを今後行ってほしい。</p>
小口アドバイザー	「要改善」	<p>説明のとおり、努力し多くの講座を開催して、多くの人を集めている。ただ、一講座当たりの経費が多額で積算の見直しが必要。企画・運営のための必要時間が多すぎる。この積算と事業者の決算の費用区分に差があり、必要な経費・時間を全面的に見直し、適正な予算措置をとってほしい。</p> <p>緑サポーターの養成については、他の県と比べて突出した数のサポーターがいるので、経費をかけてどんどんサポーターを養成するのも1つの考えではあるが、サポーターが素晴らしい啓発活動を行えるよう、サポーターの活用に目を向けてほしい。</p>
五味アドバイザー	「要改善」	<p>緑の教室の企画立案に係る人件費の積算に大変疑問を感じる。内容が毎年大きく変わっていくのであれば、これほどの日数が必要だとは考えられない。</p> <p>また、巨樹名木学習講座については、わずかであってもバス代の実費負担を参加者に求める必要があるのではないかと感じた。現地での講座とのことであり、他の集合講習とは趣が異なるものだと感じた。</p> <p>委託先の山梨県造園建設業協同組合はプロポーザル方式での選定とのことだが、他の事業者への委託は現状難しいのではないかと感じた。今後も委託が続くのであれば、積算の根拠は、さらに明確・適正であるべきだと考える。</p>